



Be creative !

“Start”の時を決めるのは君！ ～保護者向け進路講演会～

1月28日(土)、1年生・2年生の保護者の皆様を対象に進路講演会が開催されました。200名の保護者の皆様が参加され、河合塾の高田眞孝様より「大学入試の現状と保護者の心構え」についてお話をいただくとともに、日本福祉大学中村副学長には「日本福祉大学の魅力」について語っていただきました。熱心にメモを取ってお話に耳を傾ける保護者の皆様の姿に触発され、私もお話に耳を傾けました。その中には、ぜひ、生徒の皆さんにも知ってほしいことがあり、河合塾高田様のお許しをいただき、河合塾の資料も活用し、その内容の一端を皆さんに紹介いたします。



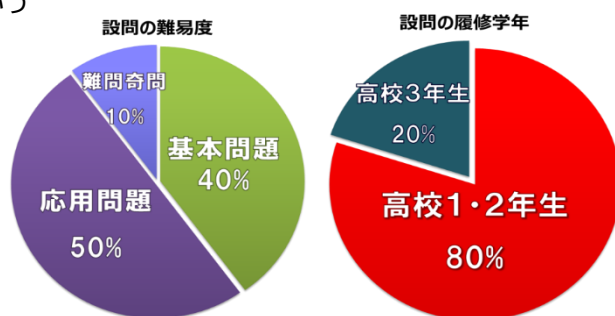
* 人間の成長は試行錯誤が作り出す



高校入試もそうですが、高校卒業後の進路選択も自分自身の人生の岐路や方向性を定める大切な取り組みです。ゆえにすべての人が緊張し、チャレンジをしていきます。その取り組みをじっと見守る保護者の皆さん。「受験を通して我が子が成長した」、80%を超える保護者の皆様が子どもの成長を実感されているとのこと。なぜ、受験を通して子どもは成長するのか。「それは試行錯誤があるからだ。」と高田氏は言います。この試行錯誤を何回おこなったのか、その数と人間の成長は比例すると力説されました。

* 試行錯誤を繰り返すためにも“Start”の時期は自分で決める

成長のカギとなるこの試行錯誤の取り組みを何度も繰り返すことが大切。とすれば、どうすればいいのでしょうか。例えば、共通テストの日程や大学の入試の日程は概ね決まっています。ここを動かすことはできません。つまり“Goal”は決まっている。動かすことができるもの、それは“Start”の時期です。この“Start”の時期は自分で決めることができます。また、逆に言えば、自分で決めない限り“Start”はないに等しいということでもあります。高校生活は3年間と区切られています。昨年の4月に入学した1年生の皆さんも、振り返ってみるとあっという間に時は過ぎていったのではないのでしょうか。次の一年は高校生活に慣れてしまった分、もっと早く過ぎ去っていきます。さあ、君はいつ、どのように“Start”を切りますか？(右図は大学の入試問題の割合。圧倒的に1・2年生で学習する内容が多いことが分かりますね。資料提供 河合塾)



* 参考にすべきは成功例？失敗例？

合格最低得点率 : 60～70%

挑戦しなければ
可能性は0%

参考にすべきは成功例？失敗例？皆さんはどう思いますか。意見の割れるところかもしれませんね。高田氏はきっぱりと「それは失敗例ですよ。」と教えてくれました。なぜか。失敗例には万人に共通する項目があるため、参考とするに適している。成功例には各個人の特性が関係しているので、マネしても必ずしもうまくいくとは限らない。一多くの受験生を見てきた高田氏の実感がここにあります。しかしながら、ここにも試行錯誤が必要のようです。「やってみて判断する」、成功例がぴったりと来る人もきつというと思います。

***最後まであきらめない** これも高田氏が強調されたことのひとつです。「大学入試一早く決めたい、安心したい、その気持ちはわかります。でもね、一般入試まで頑張る。準備期間が長ければ学力はつく。そこに合格の可能性がります。後期入試まで見定めて。後期入試で第一志望を get する人も多い。最後まであきらめない！」心に刻もう！

Welcome to Japan! 2人の留学生を紹介します。

2週間という大変短い期間ではありますが、現在1年生に2人の留学生が来ています。一人はタイからやってきた Wiphapat さん、もう一人は韓国からやってきた Habin さんです。二人から全校の皆さんへのメッセージです。

★Hello, I'm Habin. I'm having fun going to school.

I started studying Japanese because of the rhythm game that my friend recommended me. Then I wanted to read letters, and one of my friends knowing Japanese helped me. I felt a great sense of accomplishment when I could read some words. Then I got suggestion to study in Japan. It bothered me that I was not good at Japanese, but I decided to come to Japan because I had good time with an American student who homestayd at our house though I couldn't communicate enough. The chance was just in front of me. It's a waste if I miss it. People around me worried my visiting Japan, but I was incredible brave. "I'm not going to the remote area, it's the place people live, everything is similar as long as people live, it will be fine." Even now, I think my choice seems reckless, but it's fun to find and adapt to the differences in culture and lifestyle. It's a time where I really think, "I'm glad to be here in Japan to study."

(写真前列右から6番目が Habin さんです。)



★I'm Wiphapat from Thailand.

What makes me want to go to Japan is to learn their cultures. Now I'm studying in Japanese class in Thailand, and I like it. But just like is not enough for me to make a decision whether I will continue studying Japanese in University or not. So I come to Japan to learn how their culture works. Now I've been in Japan for 2 weeks, and studying in Nihon Fukushi University Affiliated High school. Living here for 2 weeks making me realize that Japan is so much more than I thought and makes me know that what I had studied in Thailand is not enough, and become my new goal of studying Japanese. So back then my goals for studying Japanese is just to understand anime, but now it gets bigger and better. I want to be able to communicate, learn and live in Japan. (写真前列右から5番目が Wiphapat さんです)



うれしいお知らせです 🌻🌻🌻🌻



2022年度3年C組の文化祭の取り組みである「ウクライナに平和を」の企画が「We Support UNICEF」の賞に輝き、賞状が贈られるとともに、日本ユニセフ協会のホームページにその活動の紹介が掲載されることになりました。

高校生の立場で、そして高校生らしい発想で平和について考えるとともに、工夫にあふれた支援の活動を行ったことが評価されました。

私はこのように思います。彼らの取り組みが文化祭のみに終わらず、社会の中で共感の輪の広がりを作りだし、新たな学

びを伴って生徒たちに還元されることは大変すばらしい。3年生ならではの充実した取り組みだったと思います。3年C組の皆さん、おめでとう！ 素敵な財産を私たちに残してくれてありがとう！

ユニセフホームページ <https://www.unicef.or.jp/kodomo/kyoroku/report/>



もう一人の留学生アンドレ君とお別れです

3年E組に所属し、8か月日本での高校生活を経験したアンドレ君が母国ブラジルに帰国します。本来、彼は2020年度に本校に来る予定だった留学生です。彼の留学もコロナによる世界的なパンデミックの影響を受け、3年越しのものとなりました。彼が諦めることなく、日本への留学を希望し続けてくれたことが、私たちとの出会いを生み出しました。

本校の高校生よりも少し大人のアンドレ君は、いつも冷静に行動し、日本語がまだよく理解できなかったところも真面目に授業に取り組みました。歴史と芸術に深い関心を持つアンドレ君。自分の意見もよく述べる、シャイでありながらも自分自身をきちんと確立したさわやかな青年でした。

彼が最も力を発揮したのは、3年生グローバル英語コースの生徒たちが12月中旬、Asian Students Exchange Program(ASEP)に取り組みねばならない時でした。折しも学校は休校中、自分たちの発表の映像を台湾に送るときのこと。彼が中心となり、プレゼンテーションのスク립トの点検や映像のまとめなどを行ったと聞いています。各家庭にいる生徒をオンラインで繋いで、彼が手腕を見せた取り組みとなりました。もちろん、ASEP 当日の活躍は言うまでもありません。一足早くて恐縮ですが、彼が卒業文集に寄せた原稿を紹介します。

My experience in Nippuku

3年E組 André Assis Sales Dias

Those 8 months that I spent at the Nihon Fukushi Affiliated High School being an exchange



student were really great. The teachers and students were really gentle with me and I appreciate that a lot. The thing that I most like at school are the global classes, especially the ones that we meet online with people from other countries. Only thing that I think I had some trouble with was communicating a lot with the other students, since my Japanese, especially in the beginning, was really bad, and I am a naturally shy person but I'm glad that I was able to make some friends. Thank you very Much.

André Assis Sales Dias

上の写真は体育祭でのアンドレ君の様子です。彼の母国にはこうしたいわゆる「運動会」的な行事はないと聞きました。夢中になって競技に取り組む本校生徒の様子はアンドレ君にはどのように映ったのでしょうか。棒とりの競技に取り組むこのアンドレ君の様子からは、彼が十分に楽しんでいることが分かりますね。伊藤園「おいお茶」新俳句コンクールにも日本語でチャレンジ。日本独特の五七五の文化にもなじんだアンドレ君でした。

Dear André

Thank you for coming to our school. You did a good job.
I hope you are doing well.
I wish you the best of luck in your future.
Best regards



Principal Kikue Yamaguchi

今月の言葉

When in doubt, choose change. Lily Leung

迷ったら、変化を選びなさい。 リリー・レオン(中国・女優)

臆病な私はつつい現状維持を選択しがちです。私が尊敬するある先生は言いました。「現状維持は“後退”」、合わせて胸に刻みたい言葉です。